

明治がみえた！

《前口上》

「山口県の近代の姿を調べたい」。文書館の館蔵資料の森のなかを彷徨ってみることにします。
目にとまる数多くの「古い」写真。
台紙に貼られたおごそなたたずまいの写真 案内誌の広告に用いられた写真 絵葉書に仕立てられた写真
「いつ頃の様子が写されているのだろうか」「どこが写されているのだろうか」
「誰が撮影したのだろうか」「なぜ撮影されたのだろうか」
今月の資料小展示では、写真資料にまつわる謎の解明に向けた探索の途中経過として、
明治期の写真資料についてのあれこれを報告することになります。
「写真帖」「名所案内」「記念誌」に掲載された写真だけでなく、
同時期の刊行物掲載の広告写真、諸家文書に含まれている数々の写真もあわせて観察してみました。



▲写真師山本忠橘の広告（「防長案内」〈明治41年〉より）
明治31年開業、山口町諸願小路の写場を真影館と名乗った時期があったようです

■ 行幸啓と写真

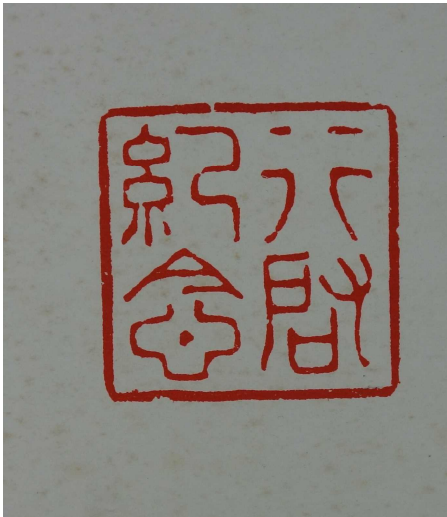
A 「防長名蹟」

- ▼一般郷土史料 B 372 ▼文書館図書290 (▼国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能)
▼写真資料・行幸啓 4 (皇室への献上品としての特装品)

印刷・発行	明治41年7月
著作兼発行者	麻生亮 (山口県吉敷郡山口町後河原160番地)
製版兼印刷者	島田柳太郎 (京都市下京区大和大路2丁目町543番地)
印刷所	図書館 (京都市下京区大和大路2丁目町543番地)

明治41年(1908)の東宮(のちの大正天皇)山口行啓時に、「山口県県勢要覧」「明治三十七八年戦時並戦後経営一斑」とあわせて献上されたものです。県内の名所旧蹟が写真と説明文で紹介されており、山口県の歴史や由緒についてビジュアルに理解できる献上品です。

明治44年の明治天皇行幸に際して、「県勢要覧」「山口県地図」「防長志要」とともに、「高尚優美な最極上製」として特装、漆塗りの箱に収められて献上されています。



▲「防長名蹟」(明治41年発行) 見返し

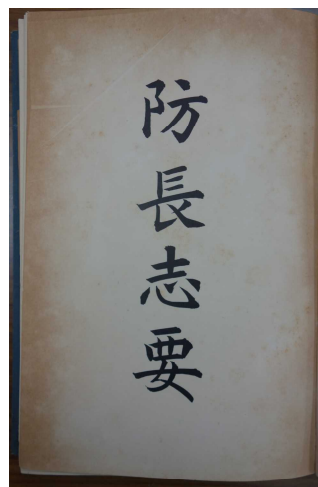


▲行幸時の献上品(山口県控)

B 「防長志要」

- ▼文書館図書217Y00
(▼国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能)

作成	明治40年10月	山口県
印刷者	原亮三郎	(京都市下谷区龍泉寺町410番地)
印刷所	金港堂書籍株式会社	(京都市日本橋区本町3丁目1番地)
発売所	東京金港堂書籍株式会社	



A 「防長名蹟」が写真中心であるのに対して、こちらは、山口県の沿革地理名所旧蹟等の大要を、主として文章によって紹介したものです。凡例には、「同時編纂の県勢要覧及び防長名蹟の記載との重複を避ける」とあります。そのため、「防長名蹟」に収められていない写真も確認できます。明治41年（1908）の行啓のために編纂されたものですが、「防長名蹟」同様、明治44年の行幸時に特装されたものが献上されています。献上品の巻頭緒言には「皇太子殿下の瀏覧を賜ひたるものなり」と書き添えられています。

明治の行啓に係る県庁文書（戦前A総務143）によると、執筆者は、山口県師範学校の宮沢甚三郎と片桐佐太郎、県立山口中学校の大森実と吉田祥朔であることが判明します。山口町出身の歴史学者で、当時、東京帝国大学史料編纂掛に在籍していた渡辺世祐も編纂に関与しています。

献上品としての「防長名蹟」は、優美な風合いに仕立てるために、表紙を「上等錦打絹真田綴」に、そして「白の帛紗包として桐箱に収め」るよう、大阪市鐘美堂（中村由松）に発注されています。

C 「〈明治天皇〉行幸記念写真帖」

▼写真資料・行幸啓5 ▼木梨家文書690

大正元年10月11日印刷、大正元年10月15日発行
 発行所・印刷所 山口県 大正元年10月
 撮影者 山口県吉敷郡山口町 山本忠橋 山本紫峯

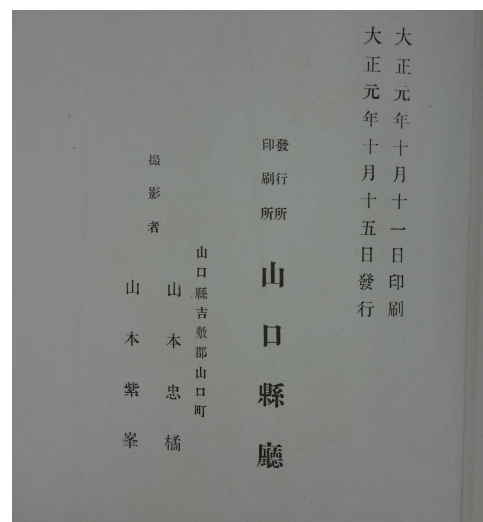
明治44年11月の行幸（陸軍大演習視察に際する明治天皇の三田尻御駐輦）に際しての県民の奉迎（防府町の様子
 が中心）の写真記録です。刊行（発刊）にまつわる種々の事務手続きについては、「明治44年 防長名蹟防長史要県勢要
 覧記念写真帖一件」（県庁戦前A総務147、〔行啓事務〕庶務部総務係）で詳細を知ることができます。

A「防長名蹟」への収録写真は山口町の写真師麻生雲烟（麻生亮）により撮影されたものですが、この記念写真帖に収録された写真の撮影者は山口町の写真師山本忠橋・山本紫峯です。

山本忠橋と山本紫峯は親子であり師弟でした。忠橋は明治36年元旦の防長新聞掲載の広告（「山口実業家案内」）によれば山口町諸願小路在住の写真師として紹介されています。亀山銅像の撮影者のひとりとしてもその名をとどめています。息子の紫峯は、大正5年（1916）10月、防長新聞社の専属写真師となり、八坂神社境内の旧松原写真館（現・山口県指定有形文化財）で防長写真館を開設、大正・昭和戦前期の県内のさまざまな光景を写真におさめています。尺八の奏者であったこともわかっています。



▲表紙



▲奥付

D 「山口県案内」

- ▼一般郷土史料 B 1
- ▼吉田樟堂777
- ▼滝口明城221（株式会社起業銀行下関支店発行）

印刷発行	明治41年4月
編輯発行	山口県吉敷郡山口町大字上宇野令第2307番屋敷作間久吉
印刷	同県同郡同町大字上宇野令第47番屋茅野重治郎
発行印刷	同県同郡同町第1014番屋敷防長新聞合資会社

明治41年（1908）の東宮山口行啓時に発行された山口県の概説書です。掲載された写真や説明記事から、A「防長名蹟」B「防長志要」のダイジェスト版であり、普及版と言えるものであることがわかります。

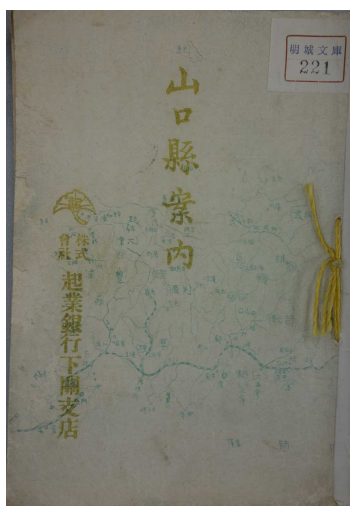
表紙には、書名の背景に山口県地図が印刷されています。山陽線に加え大嶺線が敷設されていることが目をひきます。無煙炭を産出していた大嶺炭田は国家的にも重要視されていたので、その輸送路として明治38年に開通したのが大嶺線でした。

巻頭には、「明治41年4月8日 山口県行啓記念」とのキャプションが添えられた「皇太子殿下御肖像」が印刷されています。

当館には、「一般郷土史料 B」「諸家文書（滝口明城）」「諸家文書（吉田樟堂）」に、それぞれ、「山口県案内」があります。前者には、県内各地の営業広告が綴じ込まれていますが、後者には、起業銀行下関支店の広告のみであり、その他の広告が見当たりません。後者の表紙には「株式会社起業銀行下関支店」と印刷されているので、同行が単独で発行したものと考えられます。県立山口図書館所蔵の「山口県案内」（山口県発行【Y290/D8】）の表紙には、「行啓記念スタンプ」が押されており、この冊子の性格をはっきり示してくれます。

ちなみに、H「柳井津案内」も東宮行啓の記念に作成された案内書です。序文には、「東宮殿下行啓の日近き・・・・・・記念に発行・・・・・・柳井津の沿革の歴史地理の手引き、名所旧蹟神社仏閣の案内誌、諸官公衙学校会社銀行工場著名商店の紹介誌、富の統計。商工業の一覧誌」とあります。「商都」という柳井の性格上、商案内書としての性格が色濃くにじみ出ているように思われます。

なお、明治41年発行の同書収録写真の比較材料として参照したのが県立山口図書館蔵のI「柳井案内」〈明治43年刊行、編集：鎌原孤燈 発行：藤田文友堂【Y234/E 01】〉です。



▲「山口県案内」（起業銀行版）



▲「山口県案内」表紙のスタンプ
（県立山口図書館蔵）

A「防長名蹟」B「防長志要」C「〈明治天皇〉行幸記念写真帖」D「山口県案内」H「柳井津案内」I「柳井案内」は、いずれも、明治40年代の行幸啓をきっかけとして作成されたものです。

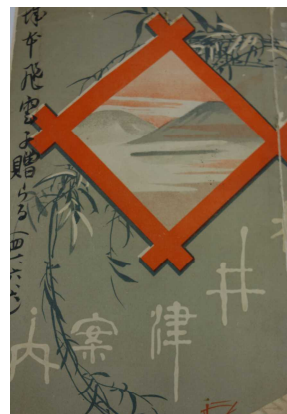
平成31年（2019）の山口県文書館アーカイブズ展示「記録と情報 解説シート【4. 明治期山口県の映し鏡「献上品」の世界】」もあわせて御参照ください（当館Webページで閲覧できます）。

A「防長名蹟」H「柳井津案内」の収録写真は、当館のデジタルアーカイブで閲覧可能です。

H 「柳井津案内」

▼一般郷土史料B 209

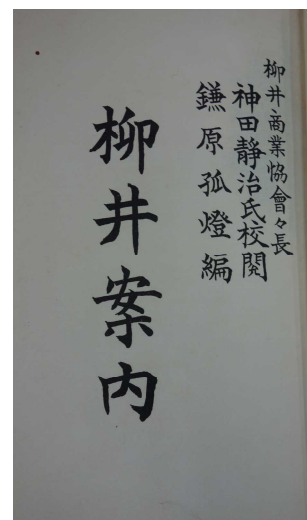
明治41年5月15日印刷	明治41年5月17日発行
編纂者	山口県佐波郡牟礼村大字牟礼3067番地城本嘉右衛門〈城本飛雲子〉
発行者	山口県玖珂郡柳井町大字柳井津333番地藤田與吉
発行所	山口県玖珂郡柳井町大字柳井津333番地藤田文友堂
印刷人	大阪市北区中之島4丁目5番地塩原鈞
印刷所	大阪市北区中之島4丁目5番地光村合資会社大阪工場



I 「柳井案内」

▼県立山口図書館 (Y234/E 0 I)

明治43年10月12日印刷	明治43年10月20日発行
編纂者	東京都東京市芝区愛宕町1丁目2番地鎌原成治 (鎌原孤燈)
校閲	柳井商業協会会長神田清治 (琴岳)
発行者	山口県玖珂郡柳井町大字柳井津333番地藤田與吉
発行所	山口県玖珂郡柳井町大字柳井津333番地藤田文友堂
印刷所	大阪市西区靱下通り2丁目4番地 森本玉次郎
印刷人	大阪市東区北久宝寺町2丁目80番屋敷 合資会社久宝堂
序文	長谷川晚翠 (※ 「柳井津案内」にも序文)



■ 共進会と写真

明治41年（1908）10月、山口の桜畠練兵場を舞台に「中国六県聯合畜産共進会」が開かれました。

共進会とは、勸業博覧会とともに、明治の「富国強兵・殖産興業」政策を反映したイベントです。各地の代表的な物産を一堂に集めること、一般の観覧に供すること、そして、生産者や販売者が優劣を競うことによって、品質改良や産業振興を図ることをねらいとするものでした。

この聯合畜産会は、明治31年11月に山口県会議事堂で開催された「中国地区実業大会」の席上で防長畜産会・島根県農会から、その開設が提議されたことをきっかけに、明治33年島根県、明治35年岡山県、明治39年鳥取県に続いて、明治41年に山口県で開催されたものです。

山口大会からは、中国地区の五県に兵庫県を加えて、六県での聯合開催になったほか、牛馬豚に加えて鶏も対象として、従来よりも規模の大きな共進会になったようです。

この畜産共進会に関連した刊行物が、E「防長農業図譜 第一集」F「防長案内」G「山口案内」でした。F・Gは、共進会開催地山口県（そして山口）の名所案内（商工観光のガイドブック、名産の紹介、宿泊案内）、Eは記念写真帖にあたります。

ちなみに、この共進会開催と時を同じくして、軽便鉄道（大日本軌道株式会社）の「小郡新町－湯田温泉」が開通（共進会会期中は臨時列車も増発）。この鉄道開通が、山口・湯田の発展振興にとっての起爆剤として意識されていたことは言うまでもありません。F「防長案内」G「山口案内」の刊行にはそうした意味合いもあったものと思われます。

E・F・Gともに当館諸家文書滝口明城に収められています。滝口吉良（明城、安政5年〈1858〉～昭和10年〈1935〉）は、県会議員・貴族院議員・衆議院議員を歴任した名望家であり、会長として県農会の活動の中核を担った人物です（なお、Eは当館のデジタルアーカイブで閲覧可能）。

E 「防長農業図譜 第一集」

▼滝口明城347 (▼国立国会図書館デジタルコレクションでも閲覧可能)

印刷発行	明治42年11月
発行兼著作者	山口県吉敷郡山口町大字道場門前第85番地山口県農会会報部
印刷者	東京市神田区佐久間町1丁目1番地七條愷
印刷所	東京市神田区佐久間町1丁目1番地金属板印刷合資会社

明治41年（1908）の畜産共進会の実況をはじめ、明治末期の県内の農業分野での技術改良や新規事業への積極的な取組の実相をうかがうことのできる写真が収載されたものです。山口県農会の機関誌『山口県農会報』に掲載された写真も数多く取り上げられています。

畜産共進会開催期間中に撮影された写真は山口の山本写真師の手になるもののようです。

「農業図譜 第一集」とのタイトルが付されているものの、第二集が刊行された形跡は見当たりません。



▲表紙



▲県立染織講習所（明治35年創設、玖珂郡柳井町）



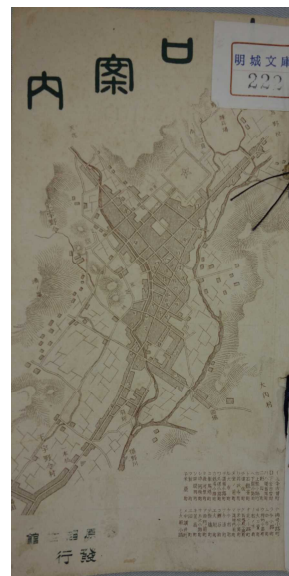
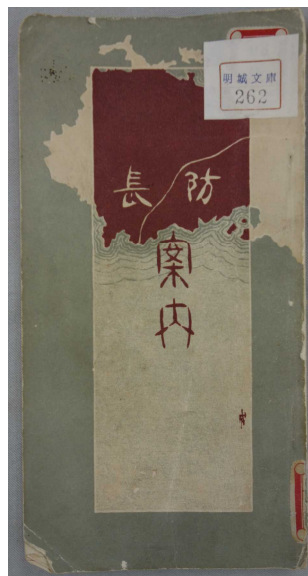
▲共進会会場全景（歩兵第四十二聯隊練兵場、現・山口市宮野）

F 「防長案内」

▼滝口明城262

(▼国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能)

明治41年10月1日印刷 明治41年10月5日発行
中国聯合畜産共進会山口県協賛会編纂
(編纂代表者作間久吉)
山口県吉敷郡山口町第1130番屋敷小原松千代
印刷者 東京市牛込区榎町7番地太田雪松
印刷所 東京市牛込区榎町7番地日清印刷株式会社
発行所 山口県山口町小原超世館



G 「山口案内」

▼滝口明城222

明治41年10月13日印刷 明治41年10月18日発行
山口実業会編纂
代表者兼発行者
山口県吉敷郡山口町第1130番地小原松千代
印刷者 同県同郡同町第9番地宗像イツ
印刷所 同県同町第9番地山口響海館

ここまで紹介してきたのは明治期に編集・刊行されたものです。したがって、収められた数々の写真は、明治期に撮影されたものと特定できます。

今回の資料小展示では、こうした刊行物に収められた写真を手がかりに、館蔵資料から、明治期に写された可能性の高い写真の数々を紹介してみます。

明治への時間旅行の道案内のつもりです。そして、写真資料に秘められたポテンシャルに迫るアプローチのひとつとして受けとめていただければ幸いです。

■ケーススタディ

諸家文書（山口市吉敷）佐田家文書114の絵葉書に注目してみます。

絵葉書写真面下部には「第四回中国六県聯合畜産馬匹共進会正門」とプリントされているので、何が写されているのかは特定できます。この共進会が開催された明治41年（1908）10月の様子が写された写真であることは間違いありません。写真右上の記念スタンプもその判断を補強してくれます。

しかし、この絵葉書の作製時期については特定できません。このような記念絵葉書は、イベント開催前に用意される場合と、開催後に発行される場合が考えられます。「いつ」の写真（絵葉書）なのかの公表については慎重を要するのです。

なお、写真下部には「山口米屋町桂山陽堂製」と記されています。この絵葉書の発行元が山口町の書肆「桂山陽堂」であることがわかります。桂山陽堂は、明治41年に「皇太子行啓記念絵葉書」（内藤家文書273）、「愛国婦人会山口支部第一回総会記念絵葉書」（内藤家文書551）を発行しています。



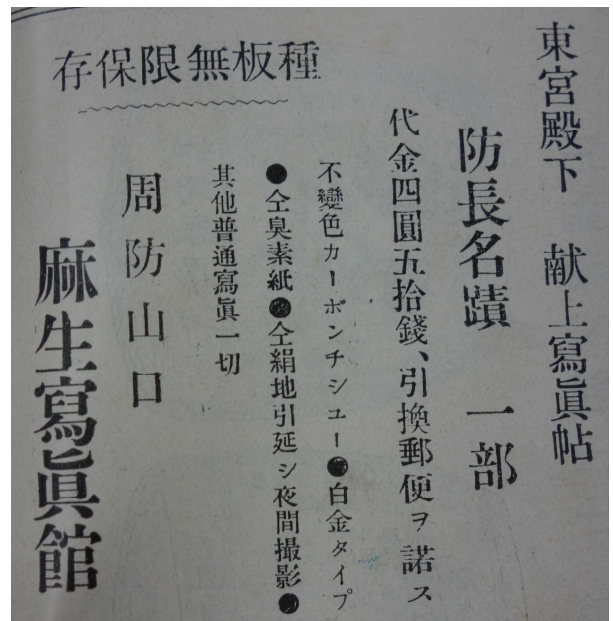
■「歩兵第四十二聯隊」の写真にまつわるエピソード

- 防長名蹟 (A-1)
- 山口県案内 (D-35) 防長七十勝景〈第八〉
- 防長案内 (F-5)
- 山口案内 (G-17)

A「防長名蹟」の最初に紹介されているのは、吉敷郡宮野村の歩兵第四十二聯隊です。先に紹介した9冊の印刷刊行物 (A～I) のうち、上記の4冊で、写真入りで取り上げられています。いずれも明治41年 (1908) 発行の印刷物であり、AとDは東宮行啓にまつわるもの、FとGは中国六県聯合畜産共進会にまつわるものです。

見比べてみると、同じ写真 (山口の写真師麻生亮撮影) が用いられていることに気がつきます。行啓のために撮影された写真が、他の刊行物に転用されたということなのでしょう。

右に示した麻生写真館の広告中の「種板」の文字、写真が転用 (増し刷り) されていたことを物語っています。



▲「防長案内」掲載の麻生写真館広告

文書館所蔵の「歩兵第四十二聯隊」を撮した他の写真をさぐってみます。周慶寺山から全貌を望むことのできるため、兵営地の写真 (絵葉書) が数多く残されています。

今回は、諸家文書藤井家 (山口市1) 271「歩兵第四十二聯隊射的場地平均工事場 避弾土壘遠景之図」に注目してみます。この写真は、台紙記載の情報から、撮影場所・撮影時期・撮影者を特定することができます。

台紙には、藤井健蔵が広島陸軍経営部から請け負った工事現場の写真であること、明治32年1月7日請負、明治33年5月3日に工事が完了したこと、明治33年1月15日に撮影された写真であることが記されています。撮影者は山口石観音の写真師麻生雲烟です。



ちなみに、山口の石観音町は、実業家萬代利七らにより、明治30年 (1897)、山口電灯会社の火力発電所が設置された場所です (明治31年開業)。

山口電灯は、県内では、馬関電灯に次いで開設された火力発電の電灯会社でした (中国地方では6番目)。しかし、顧客が少なかったことから、その経営は不安定で、萩の実業家賀田金三郎、小郡の実業家葛原猪平が会社を受け継いでいくこととなります。

当館雨村家文書315には、山口電灯所事務所に併設された「浴場」が写された絵葉書があります。明治35年8月26日付『防長新聞』に「山口電燈所の浴場開業式」との紹介記事があります。右側二階建て建物正面には「電気湯」の額が掲げられ、暖簾には「男」「女」の文字が見えます。発電に際して生じる「廃湯」が利用された浴場だったようです。開業後の三日間はお披露目の意味で無料で入浴が可能だったようです。



■ 「松崎天神」の写真にまつわるエピソード

I 社殿を写した写真

●防長名蹟 (A-23) ●山口県案内 (D-68) 防長七十勝景 (第四十) ●防長案内 (F-89)

松崎天神 (昭和28年 (1953) 防府天満宮に改称) は、防府町 (明治35年 (1902) 町制施行) を代表する名所です。そのため、社殿を写した数多くの写真が残されていますが、写真黎明期にあたる明治時代に撮影されたと思われる写真は稀少です。

「防長名蹟」に収められているのは、松崎天神境内地の東側から西方向に向かって、楼門と春風楼を捉えた写真です (D-68、F-89は同じ写真)。館蔵史料から、明治期に撮影されたと思われる松崎神社境内の写真 (絵葉書) 2点を紹介してみます。

a. 内藤家文書578 (「防府名勝えはがき」周防宮市竹村紙店発行)

絵葉書写真面のスタンプから、明治41年5月24日に防府町で開催された帝国水難救済会山口支部発会式を記念して発行された絵葉書であることが判明します。したがって、明治41年5月以前に撮影された写真であると判断できます。明治41年7月刊行の防長名蹟の写真とほぼ同時期に撮影された写真と思われます。

b. 吉川家文書208 (「松崎神社楼門絵葉書」周防宮市竹村紙店発行)

明治44年に、御駐輦紀念 (つまり行幸紀念) として宮市の竹村紙店が発行した「防府名勝 えはがき帖」のうち一枚です (防府町の名所を取り上げた絵葉書を写真帖仕立てにまとめたもの、切り離して使用されたようです)。写真下には赤色の文字キャプションを確認できます。

周防宮市竹村紙店は、明治から大正にかけての防府宮市の表情を記録した絵はがきを他にもいくつか発行しています。撮影者を特定できる情報は見いだせていません。



a. 内藤家文書578



b. 吉川家文書208

2 「天神山を望む!」「天神山から眺める!」

松崎神社境内地を懐に抱く天神山 (標高166m) は、三田尻の港に向かって南にまっすぐに延びる菰往還道に沿った宮市のまちなみや防府平野を俯瞰できる好適地です。残されている数々の写真からは、近代に彩られていく防府の姿を読み取ることができます。

天神山から南方向三田尻港方面への眺めを紹介した写真として、『松崎校九十年史』(防府市立松崎小学校、昭和38年【御園生文庫480】) 巻頭口絵があります (明治44年の写真)。主要な建物の名称が示してあり、当時の防府の繁栄ぶりを物語ってくれます。

- (B-3) 酒垂公園より三田尻港を望む
- 行幸記念写真帖 (C-1) 防府町全景 (天神山から)
- 山口県案内 (D-66.67) 防長七十勝景 (第三十九)
 - ①天神山から防府町を望む②天神山を望む
- 山口県案内 (D-69) 防長七十勝景 (第四十一)
 - 松崎神社春風楼から西浦を望む
- 山口県案内 (D-72)
 - 防長七十勝景 (第四十四) 松崎神社から桑山を望む
- 防長案内 (F-87) 防府町全景
 - (松崎神社境内から華浦湾を望む)
- 防長案内 (F-88) 天神山 (別名酒垂山・酒滴山)
- 防長案内 (F-91) 桑山 (天神山から望む)



▲ 酒垂公園からの眺望 (「防長志要」より)

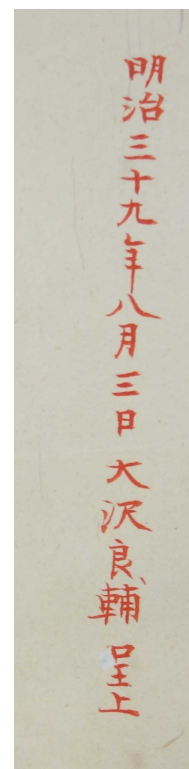
天神山は、桑山とともに、明治30年代に砂防工事 (植林) が実施された場所としても知られています。花崗岩の風化したマサ土に覆われており、明治以降、樹木伐採などの影響で荒廃が著しかったことから、土砂の流出や崩落を防ぐために植林が行われたのです。宮市側から松崎天神を仰ぎ見る写真からは、当時の天神山の様子を知ることができます。

次に紹介する写真は松元淳収集資料746「防州三田尻ノ景」です (今回の月間資料小展示のタイトルバックに使用した写真です)。天神山を南から見上げたもので、松崎神社とともに天神山の植林の様子も確かめることができます。写真の裏には「明治三十九年八月三日大沢良輔呈上」との朱書きが残されています。この写真は一連の松元淳収集資料のうち旧津和野藩主亀井家関連の写真コレクションに含まれるものです。明治39年 (1906) 8月、墓参のため津和野入りした、当時の亀井家当主茲常に大沢良輔が献上した写真です。阿武郡生まれの良輔は津和野の大沢家を嗣いだ人物で、明治33年、防府松崎に周南女紅学舎を開いています (昭和2年に (1937) 周南家庭実科女学校と改称、昭和19年閉校)。

松本淳収集資料747のもう一枚の写真と同資料746の写真、ともに松崎神社境内奥の佐加太利公園の一部を捉えています。写真裏には、同じく、「明治三十九年八月三日大沢良輔呈上」と朱書きされています。



▲ 松元淳収集資料746



▲ 写真裏の朱書き

津和野の大沢家を嗣いだとはいえ、防府在住の大沢良輔が旧藩主に写真を呈上したのはなぜなのか、大沢と亀井家の関係について、さらなる追跡が必要と思われます。

先に紹介した「明治三十九年八月三日大沢良輔呈上」の三枚の写真、台紙にこそ貼られていませんが、明治期撮影のほかの写真と比べると、際だって鮮明であることがわかります。誰が写したもののなのか、どこで焼き付けられたもののなのか、疑問がわいてきます。

ここで一つ気になることが・・・・。当時の亀井家当主茲常の父親亀井子爵家第12代当主茲明は日清戦争の従軍カメラマンとして高名であるということです。大沢呈上の鮮明な写真、亀井家と写真、解きほぐしていくと何かが見えてくるような気がします（余談ながら、栃木県那須塩原市の重要文化財旧青木周蔵那須別邸〈明治21年〉の設計者松崎万長〈まつがさきつむなが〉は亀井茲常の兄にあたります）。「ドイツ建築」「写真」ともに開明的な進取の気風をうかがうことのできるワードです。

3 防府宮市の写真師のこと

明治末期の防府宮市で活動していたと思われる写真師としては、渡邊五洲と白石権四郎（芙蓉）の名前を挙げることができます。

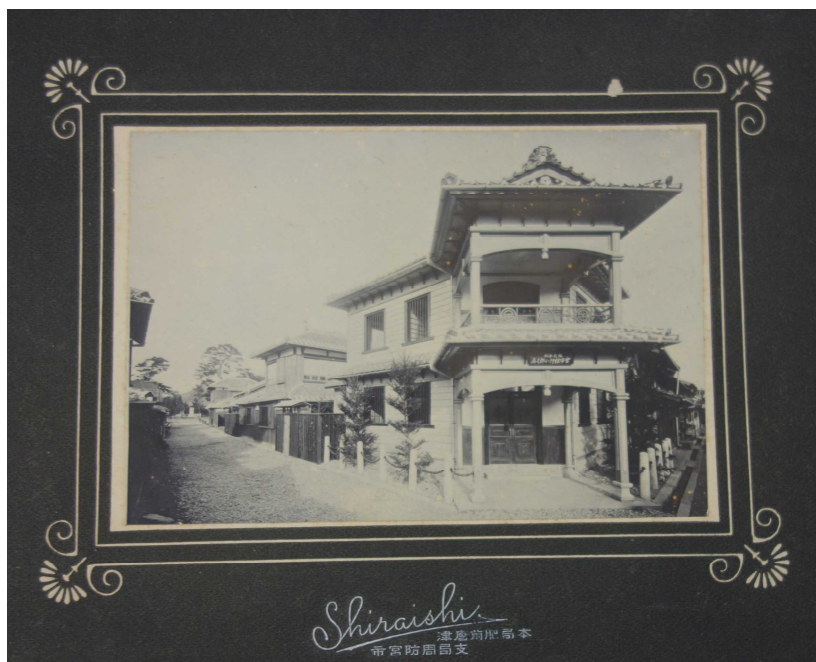
渡邊五洲は、明治の早い時期に防府宮市で写真業を開業したとされています。大正期発行と思われる防府の絵葉書の製作元として「渡邊製版部」の名前を確認できますが、この渡邊製版部と渡邊五洲を確実に関連づける記録は見いだせていません。

白石権四郎は防府天満宮参道脇に写真館を開設、『山口県防府町行在所公爵毛利元昭別邸』（明治44年、県立山口図書館【Y521】）『華浦勝境』（明治44年、県立山口図書館【Y245/E1】）『公爵毛利家防府邸写真帖』（大正5年、県立山口図書館【Y521/E6】）『佐波川洪水写真帖』（大正9年、県立山口図書館【Y369/E8】）『行啓記念写真帖』（大正11年、劔持家文書512〈当館デジタルアーカイブで閲覧可能〉）などを発行、防府を代表する写真師としてその名を留めています。地域の名士であり、防府での女子教育の充実を図るため、三田尻高等女学校創立に尽力、戦後には同校の理事長を務めています。

白石権四郎撮影の写真は、当館毛利家文庫81（写真資料）にも数点確認できます。

写真師白石権四郎といえば、先に紹介した「山口県案内」収録の（D-25）宮市銀行の広告写真を探索していたところ、行き当たったのが藤津家文書343「宮市銀行小郡支店」の写真です。

台紙裏には、明治41年11月に撮影された株式会社宮市銀行（本店防府町）小郡支店新築営業所の写真であるとの説明書きが貼り付けられています。



台紙には「Shiraishi」と筆記体で記されています。防府にかかわりのある銀行の写真なので、撮影したのは白石権四郎であることが想定されます。

「Shiraishi」の下には、さらに、「本局肥前唐津 支局周防宮市」とあります。

大正8年発行の『現代防長人物誌』には、白石権四郎の兄徳三郎が九州唐津で写真業を営んでいたことが紹介されています。

現時点では、「本局」「支局」の関係を解き明かす情報には手が届いていません。

しかし、明治41年発行の『山口県案内』にこの写真を使った広告が収録されているということから、撮影時期については、ある程度絞り込むことができたと言えます。

■ 「山口育児院」にまつわる写真

明治41年10月、中国六県聯合畜産共進会の開催にあわせて刊行されたのが G「防長案内」です。山口名所のひとつとして山口育児院がとりあげられています。

山口育児院は、孤児や困窮児童の救済を目的に、洞春寺住職荒川道隆によって明治37年（1904）に創設されました。人びとの慈悲の心に訴え、寄せられた義捐寄附によって、育児院は運営されていました。

明治期撮影と思われる、山口育児院の写真を紹介してみます。



a. 防府市原田家文書1099

創設時の育児院は、専用の独立した院舎を持っていたわけではなく、洞春寺の境内の建物を仮住まいとして利用していたようです。

台紙裏に記された墨書によると、この写真は育児院への寄附に対する記念として手渡されたもののようです（明治41年1月）。

窮状を訴えて、育児院への寄附を募るために利用された写真と思われます。撮影は、山口町の写真師山本忠橋です。



b. (山口町古熊) 河野家文書513

明治42年1月発行の「山口育児院報告」に綴じ込まれた写真です（左・下 ともに）。

山口育児院と記された托鉢袋を首からぶらさげた僧侶が、寄附を募るために県下一円を巡回したとされます。寄附は義捐金として、施設の維持充実、収容孤児の生活・教育のための資金となったのです。

こうした資金援助を得て、明治41年6月には、洞春寺山門脇の境内隣接地に独立した院舎（病室と炊事場は別棟）ができあがりました。

